

「優しい虐待」？！

“米イエローストーン国立公園 (Yellowstone National Park) で、生後間もないバイソンの赤ちゃんが「寒そう」という理由から観光客に車に乗せられて「保護」された結果、母親から育児放棄されてしまい、安楽死を余儀なくされていたことが分かった。”という記事 (ヤフー・ニュース) を見ました。

小雨の中、寒そうにしているバイソンの赤ちゃんを助けたいという優しさは理解出来ますが、結果として、その支援が間違っていたこととなります。

子どもの教育においても、気持ちとは別に、その支援がもたらす結果を考慮することが大切になってきます。そんなことを考えている時、日本で、ショッキングな事件が起こりました。「15歳少女母親絞殺事件」です。

普段、おとなしく母親にも従順だった娘さんが母親を絞殺するという痛ましい事件です。詳しいことはまだわかりませんが、この事件に関して、ある心理学者が、「優しい虐待」という言葉を使っていました。

子どものためを思っている言葉で、親の理想のルールに乗せることを「優しい虐待」と定義するそうです。“〇〇してはいけません”などの禁止、“〇時にかえりなさい”などの指示、“ダメな子ね”などの否定ということです。

個人的には、子どもの発達段階にもよるし、「躰」としての問題もあるので完全には賛同出来ません。その心理学の方は、“心配しているから”という文脈の言葉は使わない。“あなたのことを思っているのよ”“将来が心配で”などは、自分の欲求を子どもに押しつけるのを正当化するための親の心理の現れと言っています。私も、親の一人として、これまでにこれに類する言葉を言ってきた気がします。言葉を使うときに、大事なものは、その子の人格を大切に、親の思いとは別に、その子にとって何が大切かを考え、言葉かけることが大事だと思います。

“親が日常的に言葉やしぐさで子どもを支配していると、子どもは主体性を失っていきます”“親の支配下にある子どもは、選択肢が少なく、答えが白か黒かだけで、グレーゾーンが無いので、行動範囲が狭められがちです。親の支配に怯えてきつていて、自由に遊んだ記憶がない場合もある。”こんな風に考えると、親としてどのようにしていけば良いのかわからなくなってしまいます。

教育に関して、これが正解というものはなく、その子その子に応じた教育があるということです。子どもを親の所有物とは考えず、一個の人格として捉え、教え諭していくことが大切だと思います。また、子どもが思春期を迎え、反抗的な態度をとったり、親の言うことを聞かなかったりで悩んでいる方もいるかもしれません。しかし、それは、子どもの確かな成長の証とも言えます。子どもの自立が進んでいるからです。親としては、思い通りにならない子どもの言動に腹立たしさを感じますが、確かな成長として捉えれば、気持ちの中に少し余裕がでて、冷静に対応出来ます。

改めて、私も親の一人として、子育ての難しさを感じています。しかし、逃げるわけにはいきません。これからも一緒に、子どもの確かな成長のため、頑張っていきたいと思います。

今週も個人懇談があります。

今週も、個人懇談を行います。保護者の方と顔をつきあわせ、子どものことについて話し合う大事な機会です。困っていることがあれば、どうぞご相談ください。一緒に考えていきたいと思っております。

☆ 懇談に伴って、降園・下校時間が変わります。確認の上、お子様の確実なお迎えをお願いします。